

# カリキュラムマップ<リハビリテーション学科視機能療法専攻>

**建学の精神** 「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。



**建学の精神に基づく教育目的** 全学の目的…建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

- リハビリテーション学科視機能療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。
- ①一般教養と視機能療法領域の専門知識、技術及び実践力を養う。
  - ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を養う。
  - ③生命の尊重と人間愛に基づく行動とチームと協働する良好な人間関係を築ける能力を養う。



※ディプロマ・ポリシーの番号は、P2の該当番号。

教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー		
全学方針	学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	視機能療法専攻	
<p>社会生活に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。</p>		人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					<p>生命倫理学</p>	<p>1(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。</p>	<p>5(1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、視機能療法を実践する。</p>	
		人間と社会	社会学 人間関係論 ホラナイア論	哲学 教育学 心理学								
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法 英語Ⅰ(教養英語)	コミュニケーション学								
		外国語		英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語								
<p>専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体・疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。</p>		視機能療法の基礎知識と能力を修得するため、人体の理解、疾病及び社会構造などの科目を配置する。	解剖学Ⅰ (骨・筋肉・循環・内分泌・消化器系等)	解剖学Ⅱ(神経系)					<p>視機能療法の基礎知識・能力の修得</p>	<p>1(2) 学修を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉に貢献できる力を身につける。</p>	<p>5(2) 一般教養と視機能療法領域の専門知識、技術及び実践力をもつ。</p>	
		人体の構造	生理学Ⅰ(動物的機能)	生理学Ⅱ(植物的機能)								
		心身の発達	人間発達学 保育学									
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	健康と保健 医療統計学	病理学概論 幾何光学	一般臨床医学 神経内科学 精神医学							
		視覚機能の基礎と検査機器	視覚の解剖と生理学Ⅰ(視覚・視覚付属器他) 生理光学Ⅰ(基礎) 視機能検査学概論	視覚の解剖と生理学Ⅱ(視覚・視覚系他) 視覚生理学Ⅰ(基礎)	視器の病理学 視機能検査学Ⅰ(眼科一般検査) 視機能検査学Ⅱ(眼科検査)	視機能検査学Ⅲ(両眼視機能検査)						
		保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	障害者概論	社会福祉学 医療安全管理論 医学概論		公衆衛生学 視覚障害リハビリテーション						
		基礎視能矯正学	視機能療法学概論	基礎視能矯正学Ⅰ(眼球運動、他) 基礎視能矯正学Ⅱ(眼位、両眼視) 生理光学Ⅱ(眼球光学)	視覚生理学Ⅱ(応用) 生理光学Ⅲ(屈折・調節) 薬理学			基礎視能矯正学特論Ⅰ(解剖と生理、視覚生理) 基礎視能矯正学特論Ⅱ(生理光学) 視機能療法学実験研究 医療情報学				
		視能検査学		視覚生理学演習Ⅰ(視野検査他) 生理光学演習Ⅰ(屈折検査) 眼薬理学 視機能検査学演習Ⅰ(眼科一般検査) 画像診断学	視覚生理学演習Ⅱ(電気生理) 生理光学演習Ⅱ(屈折矯正) 視機能検査学演習Ⅱ(両眼視機能検査) 視機能検査学演習Ⅲ(眼科検査) 視機能検査学演習Ⅳ(視運動系検査)							
		視能障害学		眼疾病学Ⅰ(眼球、眼球付属器他) 視機能障害学Ⅰ(神経疾患、前眼部疾患他)	眼疾病学Ⅱ(遺伝性眼疾患、小児眼疾患他) 神経眼科学			視機能障害学特論				
		視能訓練学		視機能訓練学概論	視機能療法関係法規			視機能訓練学Ⅱ(網脈絡膜疾患、視路疾患他) 視機能訓練学Ⅳ(視機能訓練学、ロビジョン) 視機能訓練学Ⅴ(視機能訓練学、総括) 視機能訓練学Ⅵ(基礎) 視機能訓練学Ⅶ(応用)				
視機能療法の領域ごとに、知識応用力・専門職コミュニケーション能力を修得し、実践能力を高める実習科目を年次段階的に配置する。	臨地実習			臨地実習Ⅰ		臨地実習Ⅱ						
							視機能療法の知識応用力・専門職コミュニケーション能力・実践力の修得		5(3) 良識・倫理観と責任感を持ち、患者、患者家族、チームを尊重し、責任をもって職務を実践できる。	5(4) 向上心と探究心をもって職務を実践できる。		